

<都賀地域>

■合戦場と赤津

ずっと昔、^{うつのみやじょうしゅ}宇都宮城主であった^{うつのみやただつな}宇都宮忠綱が^{しょごうぞく}周囲の諸豪族を
^せ攻め従え、勢いにのって下都賀地方に根をおろしていた^{みながわし}皆川氏を
^{こうげき}攻撃した。

^{みながわし}皆川氏はこれを^{かわはらだ}川原田の地に迎えうち、ここで両軍の大激戦が
展開された。そこでこの地一帯をだれということなく、^{かっせんば}合戦場と呼
ぶようになったといわれている。

また、この付近は戦死者が山となり流血が流れたので、この付近
を赤血と呼んだが、いつのころからか赤血が^{あかづ}赤津になったといわれ
ている。